

中期経営計画 (2022年度～2024年度)

2022年3月25日
株式会社証券保管振替機構

中期経営計画（2022年度～2024年度）の骨子

利用者本位の業務運営の徹底を通じて、資本市場の機能向上に寄与し、社会の発展に貢献すべく、既存の制度や機能の改善を進めつつ新たなニーズに積極的に対応する。

これらを実現する土台として、業務・ITシステム両面での業務継続能力の向上策を講じるとともに、実効性のあるリスク管理の推進に注力しつつ、課題の発見と解決を担う人材の育成と確保に努める。

資本市場の機能向上、社会の発展に貢献

利用者本位の業務運営を徹底

1

既存の制度や機能の改善

2

新たなニーズへの対応

3

業務継続能力の向上

4

リスク管理制度の定着と改善

5

人材の育成と確保

施策① 既存の制度や機能の改善

- ✓ 利用者に対して、より価値の高い制度や機能の提供を図る。
- ✓ 利用者の業務に使用される当社のITシステムの利便性と安定性を向上させる。

施策② 新たなニーズへの対応

- ✓ 利用者要望や環境変化に応じてSTP化の推進に向け、提供機能の高度化を図る。
- ✓ 資本市場の環境・構造の変化とそれに伴う利用者ニーズを的確に把握し、必要な対応を柔軟かつ迅速に行う。

施策③ 業務継続能力の向上

- ✓ 大阪拠点におけるオペレーション能力の向上等により、BCP態勢の一層の強化を図る。
- ✓ 障害や災害に強く、効率的な開発と運用が可能なITシステムを実現するため、システムの構成や機能・データ配置の適正化を図る。

施策④ リスク管理制度の定着と改善

- ✓ サイバーセキュリティ対策や情報セキュリティ管理などのリスク対応の実効性の向上を図る。
- ✓ 社内におけるリスク管理制度の着実な運用を推進し、すべての社員が高いリスク管理意識を持つことを促す風土を醸成する。

施策⑤ 人材の育成と確保

- ✓ 当社の「求める人材像」に合う社員への成長を促すための研修や人員配置を行う。
- ✓ 業務を安定的に支えるとともにニーズへの積極的な取り組みを行うために、厚みのある人材の確保を図る。